friendship force
AICHI

No.86

Newsletter

スイスからは雪景色の写真が送られてきた。美しい秋を楽しんだデトロイトも今の気温は零度以下と知らせてきた。若くて元気なスイスのファミリーは今、忙しく過ごしているらしい。日本の桜を楽しんだエジプトの人達はどうしているだろうか。これからも FF 愛知と世界は繋がって行く。

2010 年最後の渡航・受入交換を終えて

オランダ

Solothurn club のメンバー

一年をふりかえって

会長　加藤紀子

今年の 1 月に会長就任以来、FF 愛知のほとんどの行事がトラブルもなく進み、今回のオランダ、スイスの交換をもって 2010 年の大切な行事が無事終了したことを心より嬉しく思っております。これも会員はじめ役員の方々のご協力の賜物と御礼申し上げます。

今回のスイス受入に当たって円高とアンバサダーの数が少ないことから財政的な問題もありましたが、役員から自発的にランチバザーが計画され、交換行事を盛り上げました。また、大勢の家族を快く受入してくださったホスト、バス旅行の前には忙しい中、下見をされた担当者、ED と共に、多くの会員の協力で良い交換を行うことが出来ました。

皆さんの努力で最高のものが作りだされる時、FF の活動の素晴らしさを改めて感じます。しかしながら問題もあります。このところクラブのマンネリ化も見えてきました。渡航、受入ホストの希望者の数がともに減少してきています。来年は会員全体でこのような問題に取り組んで解決していきたいと思っております。

スイス交換

ED 谷川智恵子

到着ロビーで Solothurn Club のメンバーがホストと交わす笑顔を見た瞬間、不安感よりこれから始まる交換を十分に楽しんで頂こうという気持ちに変わりました。

前夜からの雨で迎えたバス旅行は、伊勢が近づくにつれ青空が現れ、神宮境内を歩く頃には雨が止み、大樹に残る水滴は陽の光を受け霧のように立ち昇り、水墨画を思わせる幻想的な風景に皆大感激。忍者屋敷では、私達の想像以上に興味を持ち館内の仕掛けに絶賛。忍者ショーでは、観客の緊張を吹き飛ばすかのように英語を交えてのコミカルなパフォーマンスに全員大爆笑。ショー終了後は忍者と共に手裏剣を投げたり、写真撮影等で出発時間を遅らせました。今回の交換に忍者屋敷を選んだのは間違いではなかったと安堵しました。その後も交換はスムーズに進み、あっという間に 6 日間の交換は終わりました。

Solothurn Club の皆様からは、「愛知クラブに来て良かった、次回は是非スイスに来てください」と何度も言われ再会を約束しました。

秋の受入交換 スイス ソロトルン クラブ 10月3日～8日

13人のアンバサダーに聞く

1. 愛知のプログラムで楽しかったことは？

- Ise Shrine, Ninja show　very good organized day trip [全員]
- Toyota Factory, Toyota Techno museum
- Nagoya Castle,　Inuyama Castle
- tea ceremony at the beginning was very nice way to start.
- to be with a host family and see the life of Yoko
- home of Ryuzo and Keiko
- the first dinner with hearty welcome by Itsuko's family
- free day in Gifu and drum play with Natsue
- free day-Japanese garden and TV tower
- the contact with different families

スイスの４人の子供達

2. スイスと日本のちがいを感じたところは？

- Food- very delicious + healthy
- chopsticks, raw fish, a lot of rice
- traffic calm even in the rush hour
- special shoes for toilet　room with the tatamis
- politeness of all people

トヨタ テクノ ミュージアム

愛知 クラブ の 感想

[ホスト]

土居陽子――子供達のしつけがとても良かった。子供の具合が悪くなった時、母親はコカコーラを飲ませ、それで快復したのには驚いた。

堀　夏江――今回何が楽しかったかと尋ねたら、伊勢神宮と長時間の太鼓の練習に付き合った事と言われて嬉しかった。

西村貴美子―18 歳のアンバサダーは日本の若者の実態をリサーチしていた。電車の中でお化粧している女の子を見て何と思ったかな？

大津伊津子―日本の食事(納豆も)、文化すべてが大好きと言われ、知りたい、学びたいという姿勢にホストしていてとても気持ちが良く、楽しかった。

安藤龍藏――三人家族から若さと元気がもらえた。飲み物は夫々がワイン、ビール、酒、16 歳から飲酒可には驚きだった。17 歳のラヘールが空港へ向かう車中で「帰りたくない」とポツリ一言。

鷹野晴子――スイスのアンバサダー達の荷物の少なさに驚いた。今後の旅行で参考にしたい。

[デイホスト]

加藤八郎――大津さんのアンバサダーの希望にそって丸善へ連れて行った。日本語の書き方、読み方の本など熱心にさがし、数冊購入された。日本への関心に驚き、私も楽しんだ。

[名古屋城見学案内]

沢井由美子―スイスのグループは私の説明を熱心に聞いてくださり、大変嬉しかった。

オランダ Noord club 訪問　9月21日～10月1日

オランダ Noord Club　交換　　ED　加藤紀子

今回はスタートから戸惑いました。オランダ到着後、ホストと対面する会場でホストが誰一人来ていない、でも慌てる様子もなくすべてが鷹揚に進められていきました。それはNoord出発の時も同様でした。文化の違いに驚いたアンバサダーも多くいたことと思います。ホストによって様々なホームステイがあったことを聞いております。しかしながら多くのメンバーが1週間の生活を通してお互いを理解し合うことが出来、交流を楽しんでくださったことが嬉しいです。私自身、油絵が何枚も飾ってある家で過ごし(夜、廊下に飾ってある人物画にどっきり)、それがごく一般的であること、芸術に対する人々の意識の高さを認識させられたホームステイでもありました。問題もありましたがホスト、アンバサダーのご協力で良い交換が出来たことを感謝いたします。

大矢道子

国際交流の楽しみはその国を知ると共にその国の家庭にステイし暮し振りを知る楽しさもあります。初めてＦＦ愛知の海外への訪問に参加し、私の懸念は受け入れ先のホストファミリー、私のパートナーとうまくいくかな？ということでした。

オランダ到着後3，4日過ぎた時オランダのメンバーから、その後ホストから、ホストの奥さんが認知症のため1週間に2，3日ナーシングホームへ行っている事を聞かされ驚きました。食事の用意が出来なく夕飯は私たち（小田さん）が作った以外は外食、またはメンバーがサポートしていました。日本では考えられませんが、彼女の為にあえてホストされたと聞きました。将来私もなるかも解りません。このようになった時、人とのコミュニケイションは必要だとおもいます

富岡正男　ひろみ

フリーデイの日、近くの美術館へ誘われました。地元の版画家のEX LIBRIS(蔵書印)展のオープニングでした。日本人と知って声をかけてきます。北斎はすばらしい、広重はどうか、と聞いてきます。ジャポニスムは今も生きている？コーヒー、紅茶、ワインを手に和気藹々の雰囲気でした。

一週間というきわめて短い滞在でしたが、その中で感じたことは、オランダの人は伝統としっかりした文化を持つ人たちではないか、少なくとも軽薄な明るさは似合わない人たちではないかということです。今オランダにひかれています。

青山暢子

私は今までに14のクラブを訪れましたが、どのクラブもそれなりに楽しみました。英語で上手く話せないもどかしさも又楽しさもありました。必ずしも会話が多いからコミュニケーションが出来たと云うものではないと思うので…日本の住宅事情では難しいことですが、今までに行った多くのクラブではホストの家や今回のようにコミュニティー・センターでのポトラックパーティが多く、華やかにレストランで時間に追われてパーティをするよりもこれも又良いのではないかと思いました。

Washington 世界大会(10/16-18)・Detroit ホームステイ(10/18-22)

第 33 回世界大会は 500 人の参加者を迎え盛大に行われた。16 日早朝 8：45 からの Opening Plenary に引き続き 2 日間多くのワークショップが催された。17 日の夜はいつもながらの Gala Banquet を多くの参加者が楽しんだ。最終日は新しくクラブが開設された国、Nepal, Morocco, Albania, China が紹介された。また、Closing Plenary では日本の愛知和男さんが Wayne Smith Medal を授与された。今回は開催地がアメリカの首都ワシントン DC とあって会場から外に出るとホワイトハウスがあり、政治の中心地にいることを実感することの出来た楽しい大会だった。

デトロイトでは 5 日間、どのホストも長時間のドライブをものともせず私達を連れてプログラムに参加してくれた。-全員 good driver！デトロイトクラブのホスピタリティーとミシガンの美しい秋を楽しんだ。 **鷹野晴子**

A Pleasant Surprise！

大崎朱美

Washington 世界大会開催のホテルで朝、食堂へ降りて行くと、”Akemi″と言いながら近づいて来る笑顔。Bobbi！
2 年前の秋、ミネソタからの人たちに混じって一人だけウエスト・バージニアから日本へ、そして私の家へやって来た Bobbi でした。今、チャールストン支部の副部長。活動的で勉強家の彼女はワークショップにも意欲的に参加していました。新しい名刺の裏には the West Virginia hills のすばらしさをうたった詩が書かれています。彼女の故郷への愛とフレンドシップフォースへの熱い思いが伝わります。

会期中あちこちで見られる，再会を喜び旧交をあたためる数々のシーン。フレンドシップフォースの「力」を改めて思いました。Bobbi との再会は、私にとっては、大きな、そして嬉しいサプライズであり、ギフトでした。

ワシントン DC はどこもアメリカの歴史と文化を感じ、わくわくしながら美しい街を歩き回った。

デトロイトでは久々にホームステイの楽しさを堪能出来た。「ここはあなたの家だから自由にしてね、コーヒーが湧いてるわよ、冷蔵庫の中の物は好きに食べてね」と言われて、我が家に居るよりもリラックスした 5 日間でした。**沢野井シゲ子**

ワシントン世界大会　大津伊津子

今回で３度目の参加となった世界大会 Music のワークショップに参加した、途中　突然大きな声で私の名前を何度も何度も叫ぶ女性。そこにキャロラインが居たのだ。目を疑った。　彼女もまた名簿等見ていなかったらしい。午後はワシントンに住む彼女の娘さんの案内でキャロラインとともに楽しんだ。
世界大会ならではのハプニングだった。

デトロイトのホスト Bea and Frank
Frank が主導権のクッキング。
彼はいつもキッチンに居たみたい、毎夜赤ワインをあけてのディナーは楽しかった。私は何時も素敵なホストに恵まれてラッキー！　英語が苦手なくせに口数の多い私を少ない的確な言葉でカバーしてくださった
アケミ・オオサキ Thank you!

世界大会に初めての参加　堀　夏江

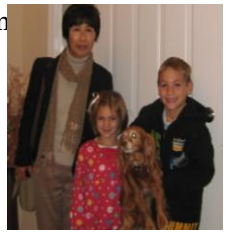
今回初めて世界大会に参加し会議がどのようなものか知りました。多くの参加者に会い、雰囲気は悪くないし、こういう経験も良いかなと思いながら実は内容はよく分かっていなく、なんとなく楽しんだというのが本音です。

今まで交流のあった友人や「世界大会で会おう」と約束していたカナダのホストにも会えなかったのは残念！(彼らはキャンセル？)

デトロイトではホストが楽しい人であった事、周りの景色の素晴らしさを楽しむ事が出来ました。　今度デトロイトクラブが訪ねて来るのを楽しみにしています。

デトロイトの 5 日間　西村貴美子

ホストの Tom は元 GM のエンジニアで物静かな方、奥さんの Linda は陽気で話し好きな大学の講師です。Tom がリタイアしてから夫婦の役割が逆転したそうです。夕方 Linda と帰宅すると Tom がラザーニアを作って待っていました。彼は近所の母親が働いている子供の通学前、帰宅後の世話もしていました。滞在中、有名な絵画の美術館や Ford Museum 等毎日、様々な所を見学し秋のデトロイトを満喫しました。次は彼らに日本の文化も是非見て頂きたい。



フレンドシップ フォース インターナショナル からのお知らせ

CHANGING THE WAY YOU SEE THE WORLD

2010年はフレンドシップフォースにとり偉大な年で、合計299の交換が成立して延べ5,000人の方々が旅行をしました－2009年に比べて画期的な増加です。ワシントンDCでの第33回世界大会もまた500人を越えるFFメンバーの参加者で大きな成功となりました。

2011年クラブと交換ポリシー

◆FFI 加盟クラブ会費：
2011年個人10ドル、ファミリー17ドルに改定

◆FFIアンバサダーフィーAmbassador Fee：
2011年のアンバサダーフィーは、1週間（5－7 泊）の交換で、アメリカのアンバサダーは150ドル、アメリカ以外のアンバサダーは、1週125ドル。
アンバサダーフィー支払期限は、交換出発の60日前まで。

◆受入クラブに支払うプログラムフィー：
1交換 100ドルで、出発前60日未満にキャンセルした場合には返金されない

◆アンバサダーが交換キャンセルする場合：
もしアンバサダーが出発の60日よりも前にキャンセルをした場合には、FFI はアンバサダーが払ったすべてのFFI フィーとホスティングフィーを返金する。
アンバサダーが出発前60日未満にキャンセルした場合には、返金はない
アンバサダークラブで準備のために集めたLocal Committee Fee は返金されない。

FAQ FFI Web site から

◆Why is travel with the Friendship Force called an Exchange? ◆

The word exchange comes from our organization’s early history when communities would actually exchange large delegations of citizen ambassadors. In some cases there were several hundred people traveling in each direction. We still use the word exchange to emphasize the cultural exchange that takes place when you become a temporary citizen for a few days, through our home hospitality program. We think this gets you straight to the heart of a country and its people.

◆フレンドシップ・フォースの旅行はなぜ交換と呼ばれるのでしょうか？ ◆

交換という言葉は、地域と地域がアンバサダーの大型派遣団の交換、時には数百名の交換をした、FF の初期の歴史に由来しております。現在もＦＦのホームステイ・プログラムによる数日間の訪問でも、文化の交換がなされるのでこれを強調するため交換という言葉を使います。

日本語要約： 加藤八郎

事務局 からの お知らせ

◆2011 年度総会◆

期　日：1 月 29 日(土)

総　会：11:00 a.m.~12:00　　講演会：13：30～15：00

会　費：1,000 円

◆2011 年交換◆

[渡航]

・イギリス　と　ドイツ　Manchester, England and Norderstedt, Germany

期日　9 月～10 月　予定

ED 土居陽子

[受入]

・イギリス　Bristol Club

期日：4 月 9 日～16 日

ED：橋本忠幸

・メキシコ　Tuxtla-Gutierrez

期日：11 月　予定

ED：土居陽子

◆2011 年度の会費◆

・FFI からのお知らせにありましたように FFI に収めるクラブフィーが変わります。

・シングル会員：1,000 円　＋　クラブ年会費　5,000 円＝6,000 円

・ファミリー会員：1,700 円　＋　クラブ年会費　5,000 円＝6,700 円

◆世界の風景◆　ポーランドのクリスマス　リチャード・S

ポーランドのごく普通の家に生まれ育った私にとってクリスマスは人々の心の中に「愛と平和」があらためて生まれてくる時です。部屋の中には大きなクリスマスツリーが飾られますが、もっとも聖なる意味を強調しているのは樅の木の枝で作られた**リース（輪）**です。世界中の文化の中で「輪」は[終わりのない形]としてとらえられ、それは「愛」［守り］または［命］のシンボルとして使われています。

特にクリスマスのリースは緑と赤の色を帯びて家庭に新しい「希望と祝福」をもたらす意味を示します。

クリスマスのテーブルには一つ余分の椅子が用意されています。子供の頃不思議に思って母に聞いたことがあります。「それは旅人が何時訪ねてきても温かく迎え入れ、食事を分かち合うため」と考えられているものでポーランドの伝統的なクリスマスの習慣なのです。

リチャードさんはポーランドワークショップの講師、現在はポーランドに在住　　鷹野晴子

編集・発行　FF 愛知　会　長：加藤紀子
事務局：西村貴美子
〒愛知県知多市八幡字笹廻間 12-199　Tel. & Fax 0562-34-0890

ニューズレター製作担当：　鷹野晴子　htkn@ma.medias.ne.jp
メール配信を希望される方はご連絡ください。
投稿・感想・要望をお寄せ下さい。
ホームページ　製作担当：　谷川智恵子